

あっと @JL

全学日本語教育通信

あっと @JLとは？

初年次教育部門(全学日本語教育)は、学生の日本語運用力(Japanese Literacy)向上をサポートする組織です。ことから、学内における日本語運用力向上にむけたさまざまな取り組みを広く発信したいという気持ちを、“@”に込めました。

新主任より
ごあいさつ

大学で「基礎」から身につける「日本語」

初年次教育部門全学日本語教育主任
メディアプロデュース学部教授

永井 聖 剛



日本語を「わかったつもり」になっていませんか。日本語を「使えるつもり」になっていませんか。

頭の中ではうまく考えがまとまっていると思っても、いざそれを書いてみるとちっともうましくない、といった経験をおそらく誰でもしていることでしょう。「話し言葉」と「書き言葉」とは質的に異なるものなのです。

かつてこの国では、書き言葉は一部の人のみがかかるもので、多くの人々は口頭でなされる言葉だけで暮らしていました。日常生活はそれで事足りたわけです。言葉を読み／書く能力は勉強して身につけるもので、特に、政治や学問の世界に参与するためには、みずから進んで「書き言葉」を修得する必要がありました。

坪内逍遙『当世書生気質』(明18～)という小説を読むと、当時の学生たちが、少なくとも三つの層からなる多言語世界を生きていたことがわかります。その三層とは、①母語(方言)的世界、②東京言葉(いわゆる標準語)の世界、③学問の言葉の世界で、この③は外国語や漢文脈の語彙で構成されていました。言文一致が成立し、大学での授業の大半が日本語でなされる今日の言語環境からは想像しがたいですが、かつては、日常言語／公共の場の言語／学問の言語の間には明瞭な溝があって、それらを乗り越えるためには相応の努力が必要だったのです。そしてこのことは、程度の差こそあれ、現在にも言えることのはずです。

大学生として身につけるべき「日本語」を、日常語の延長線上に考えていませんか。まずこの誤解を解くことから始めましょう。大学で学ぶ「日本語」

は、あなたが普段話している(ツイートしたりLINEに書き込んでいたりする)日常語とは異質な言葉です。かつて自分のお国言葉しか知らない人にとって書き言葉や標準語が外国語のようなものであったように、この「日本語」も放っておいて自然に身につくようなものではありません。抽象的な学問の言葉の理解と運用についてはなおさらのことです。

本学の「日本語表現」科目群は、基礎・応用・発展の三段階からなる体系的なプログラムであることに特色があります。必修科目「日本語表現T1」は基礎科目ですが、応用・発展科目へと継続して学ぶことで、専門科目の学修や社会生活に必要なリテラシーが修得できるよう工夫が施されています。多くの学生がこのプログラムを継続的に活用して、「日本語」の使い手として活躍してくれることを願ってやみません。

5年目を迎えた本学の全学日本語教育は、今年度設置された初年次教育部門の一翼を担う形で新たな活動の緒に就きました。大学での学修への導入教育としての日本語表現科目のさらなる充実はもとより、学生の「読む・書く・話す・聞く」活動全般にかかる啓発と環境整備に熱意をもって取り組んでいきます。

来て
みて!

ライティング サポートデスク

(通称WSD)

ライティングサポートデスクは
「自立した書き手」の育成を
目指しています。

WSDって 何をするとところ?

文章作成の疑問・悩みの
相談窓口です。
アドバイザー（教員）
やチューター（大学院
生）が学生の相談に
応じます。

どこにあるの?

長久手キャンパスは
8号棟4階共同研究
室7、星が丘キャン
パスは5号館1階初年次
教育部門共同研究室
にあります。

どんな文章を 見てもらえるの?

授業の課題・レポート、
学位論文のほか、志望
理由書、自己PR、企画
書、手紙文など、日本
語で書かれた文章なら
ば、原則として何でも
OKです。

添削はしてくれるの?

文章に直接「赤」を入
れることはしません
が、問題点を指摘し
解決策を共に考えます。
文章を書くのは、〈書き
手〉自身です。

どうやって 利用するの?

開室カレンダーで開室
日時を確認し、直接来
室してください（予約
不要）。詳しくは、WSD
ポスター・パンフレット
をご覧ください。

ちよつと
見学♪



私たちがWSDチューターです。

ライティング サポートデスクは こんなところ

文章作成に悩んだら
ぜひ来室を!
お待ちしております。



星が丘WSDはこちらです。



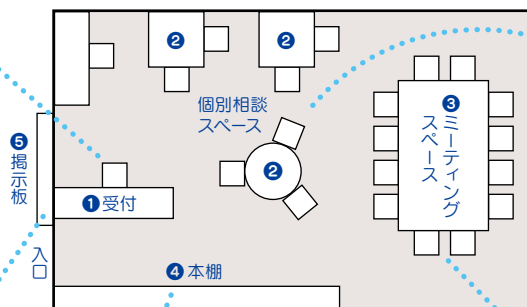
全面ガラス張りの解放感が魅力!
気軽に立ち寄ってくださいね。



① 受付

まずはここで受付台帳に記名します。
利用の仕方が分からなければ、受付
で尋ねてください。

※下図は、長久手キャンパスの例です。



② 個別相談スペース

原則として、1対1で相談に応じます。
(1回につき最大30分)



⑤ 掲示板

開室カレンダー、WSDからのお知らせ、
WSDおすすめ本の情報を掲示しています。



④ 本棚

100冊以上の日本語表現関連書籍が自由に
閲覧できます。



③ ミーティングスペース

グループ相談や勉強会に使用します。
パソコンとプロジェクターがあるので、
グループ発表のリハーサルにも使えますよ。

ズム!
ズム!!

「日本語表現」全9科目から毎号1科目ずつ
取り上げ、授業の様子を詳しくお伝えします。

日本語表現A3 (リーディング) (2~4年生対象)

「日本語表現A3<リーディング>」は、さまざまな学術的文章を批判的に読解することで多角的な視点から問題を提起する力を養います。今回は作品(テキスト)に登場する「造語」(新しく語をつくること、つくられた語)に着目し、書き手が「ことば」に込めた意味を読み取ります。

「日本語表現」科目の全体像

| | | |
|----|-----------------|-----------------|
| 基礎 | テクニカルコース | 日本語表現T1 |
| 応用 | | 日本語表現T2 |
| 発展 | アカデミックコース | 日本語表現A1<ライティング> |
| | | 日本語表現A2<スピーキング> |
| | | 日本語表現A3<リーディング> |
| | ビジネスコース | 日本語表現B1<ライティング> |
| | | 日本語表現B2<スピーキング> |
| | クリエイティブコース | 日本語表現C1<ライティング> |
| | 日本語表現C2<スピーキング> | |

コレ!



ズムアップ!

日本語表現A3

「造語」に着目して読む

ここがポイント

ONE
1

本日、取り上げるテキストが教員から提示されます。

2002年11月、セネガルのダカール市で開かれたシンポジウムに参加した。「エクソフォンな作家」という言葉を、今回のシンポジウムを中心になって企画した研究者ロベルト・シュトックハンマーの口から初めて聞いた。これまで「移民文学」とか「クレオール文学」というような言葉はよく聞いたが、「エクソフォニー」はもっと広い意味で、母語の外に出た状態一般を指す。外国語で書くのは移民だけとは限らないし、彼らの言葉がクレオール語であるとも限らない。世界はもっと複雑になっている。

(多和田葉子「エクソフォニー—母語の外へ出る旅」岩波書店2003年 一部抜粋)

教員から質問!

「エクソフォニー」という造語はどんな意味で使われていますか?

TWO

2 学生は、テキストから「エクソフォニー」の意味を検討します。



学生の解釈を
1つご紹介



エクソフォニーとは、移民ともクレオールとも関係なく母語の外に出ている状態を指す。クレオールのように植民地支配によって強要された言語でなければ、ピジンのように異国間での意思疎通のために用いられた言語でもない。いわば、母語に帰還せずまったく異なる言語を選んだセネガル人のように、個人が自由に、より遠い世界に飛び立つことがエクソフォニーなのである。

造語に込められた筆者の希望的な
思いをよく捉えていますね

「ピジン」(混成語)とは、欧米植民地を「非標準」とする西洋からの偏見に満ちた用語です。



THREE

3 学生の解釈をふまえて、教員が解説をします。

言語とは、常に国家間の闘争に振り回されてきました。「エクソフォニー」という造語の意味をテキストから読み解くだけでなく、歴史的、社会的背景をふまえて捉えることによって、新たな読み方ができるのです。



授業担当者からの メッセージ

初年次教育部門 講師(非常勤)
佐々木 亜紀子

アカデミック・リーディングの授業では、テキストを単に読むのではなく、それが生まれた時代の思潮や影響関係を視野に入れ、批判的に読解する訓練をします。ひとつの言葉、ひとつの論文によって世界の見方を変えてきた先行テキストと一緒に堪能しましょう。



書く書く
しかじか...
学生から、教職員から

本の魅力を “語る”ということ

文学部国文学科4年
辻 美里



私は、本学図書館主催「〈書評〉大賞」にこれまで4回応募し、そのうち大賞を2回、準大賞を1回いただきました。選んだ作品は全て歴史小説であり、「描かれている歴史の魅力や人物の生き様を自分の言葉で批評し、伝えたい」という思いで文章を練っていたことを思い出します。

書評を書く際には、特に構成を意識しました。「話題・要約・批評・結論」の順で文章を組み立てると上手く書くことができました。また、文章を何度も推敲しました。はじめに書いたものをそのまま提出するのではなく、何回も読み返し「他者にとって読みやすく、質の高い文章」を目指すことも重要です。

しかし、書評にとって最も大切なのは選書ではないでしょうか。どの本で“書くべき”かではなく、どの本で“書きたい”かだと思います。私に「この本が好きだから他の人にも読んで欲しい!」という情熱があったからこそ、3回の入賞という結果に結びついたのだと思います。

私は「〈書評〉大賞」を通して向上心を持つことの大切さや自分の思いを表現することの楽しさを学びました。皆さんにも書評を書くという行為を通して、多くのことを学んで欲しいと思います。

「表現する」は 「気づく」「わかる」 の第一歩

図書館事務室
鈴木 尚子



図書館ミニ講座では、約20分で論文や記事の探し方(データベースの利用法)、文献入手の手順などをお伝えしています。

「日本語表現」科目の受講者には内容を少しアレンジして開催しています。あらかじめ科目の担当教員に授業内容をうかがい、ミニ講座で強調して説明する部分、追加で説明する事項を確認し、準備します。

しかし、実際にミニ講座を開催してみると、念入りに説明しようと思っていたところを受講者はすでに体得していたり、予定外のところで質問が出たりします。想定ではなく、実際のやりとりで、何が求められているのかを把握することがやはり大切なのです。

学生のみなさんが学んでいる「表現する」こと。私たち図書館スタッフが努めている「把握する」こと。どちらも的確な情報を探すために必要な過程だと思います。

だから、「どうやって質問したらいいのかわからない」、「なんて聞こうか迷う」時でも、まずは質問(表現)してみてください。表現することで何が知りたいのかが明確になることも多いんですよ。

インフォメーション



☆日本漢字能力検定学内団体受検(6月22日実施)結果

受検者242名(2級・準2級合計)
2級合格者52名(合格率23.4%)
【上位成績】優秀賞 木戸 真信さん(文学部教育学科1年)
吉田 汐織さん(メディアプロデュース学部2年)
ほか、努力賞5名

☆平成26年度前期「愛知淑徳大学図書館〈書評〉大賞」

受賞者決定(主催:図書館、協力:初年次教育部門)
応募総数101件、このうち6名が入賞しました。

☆学生の投稿文が「中日新聞」に掲載

鈴木 萌加さん(文学部教育学科1年)
「短所より長所を見よう」(5月23日朝刊「発言ヤング」欄)
福安 美樹さん(ビジネス学部1年)
「体罰何があってもダメ」(6月13日朝刊「発言ヤング」欄)
藤田 英里香さん(福祉貢献学部1年)
「介護の現場 焦らず努力」(7月13日朝刊「ヤングアイズ」欄)

☆本学の全学FD研修会で初年次教育の現状と課題を報告

〈日時〉平成26年8月5日
〈演題〉愛知淑徳大学入学者の現状と初年次教育の課題
〈報告者〉小倉 斉(初年次教育部門長)
永井 聖剛(初年次教育部門全学日本語教育主任)
太田 浩司(初年次教育部門高大連携推進主任)

☆平成25年度第2回日本語検定で「東京書籍賞最優秀賞」を受賞

上記受賞に際し、3月に主催団体から表彰状と楯が届けられました(写真)。



編集後記



4月より部署名が「全学日本語教育部門」より「初年次教育部門(全学日本語教育)」となりました。本学における初年次教育の位置づけが明確になるなかで、学生の日本語運用能力の向上のために何ができるのか、何をすべきなのかを常に考えながら、スタッフ一丸となってこれからも頑張ります!(入口愛)

発行年月日 2014年9月30日
編集/発行 愛知淑徳大学初年次教育部門(全学日本語教育)
〒480-1197 愛知県長久手市片平二丁目9
TEL: 0561-62-4111 (代表)
nihongo@asu.aasa.ac.jp